









教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
3 【そなえる】	⑳【学校・家庭・地域での日頃の備え】 避難場所や避難方法、避難経路を把握して、安全に避難する。家具の安全対策、避難方法や落ち合う場所、非常時持ち出し品、放射線についての正しい理解など、学校や家庭でできる防災対策を行う。地域の防災システムを理解し、防災活動に参加する。	・社会科 ・国語 ・総合的な学習の時間 ・学校行事

【題材】 防災マップを作ろう

【対象】 3年生

【実践の概要・詳細】

月	教科・領域等	活 動 内 容
4 月	社会科	<p>「もっと知りたい自分の町」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分たちが住む村の様子を表した絵地図を作る。 ○自分たちの住む村について、もっと知りたくなったことを調べる。
5 月 か ら 9 月	総合的な学習の時間	<p>○防災マップを作ろう</p> <p>【課題の設定】 社会科の絵地図作りの中で村の被災状況に改めて気付くとともに、被災当時の状況や不安が思い出された。その不安を少しでも取り除き、より安心して暮らすための安全マップを作りたいという意見が出された。自分たちが生活している校舎内や、地区の危険な箇所について話し合い、地震や津波が起きた際にどのように対応すればよいのかをまとめ、他の学年にも知らせることとした。</p> <p>【情報の収集①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の様々な場所や地域ごとに危険箇所、避難の仕方、避難場所について調べる。 ・校内の危険箇所や、一次避難の仕方について考える。 <p>【整理・分析①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の様々な場所で、地震が発生したときにどのように対応すればよいかを考え、実際に行動してみる。 ・「落ちてこない、倒れてこない、動いてこない」をキーワードに安全な場所を探す。 <p>【まとめ・表現①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことをもとに、「校内防災マップ」、「ポスター」を作成する。 ・できあがったポスターを全校で紹介する。（全校朝会） ・校内に掲示する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>完成！野田村マップ☆</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>＜学級通信で活動の様子を保護者へ伝え、協力を依頼した。＞</p>  <p>＜ポスター＞</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">＜校内防災マップ＞</p> <p>【情報の収集②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の避難所巡りをして、場所を確認したり、課題を見つけたりする。 ・保護者と児童が自分の地域の避難所の確認と避難の仕方、落ち合う場所の確認を行う。（夏休みの取り組み） <p>【整理・分析②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べた内容を社会科で学んだ絵地図の作り方を生かし、防災マップを作る。（地区ごと） <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>

	国語	<p>【9月授業参観】</p> <p>「話し合って決めよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区ごとの防災マップを紹介する。 ・発表後に、保護者からも意見をいただいた。 		
10月	学習発表会	<p>【まとめ・表現②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動をもとに脚本を作成し、映像を交えて発表する。 <p><「安心と自信と笑顔の地図 ～野田村ぼうさいマップ～」></p>		

【児童の感想】

さいしょ、ぼくたちは、しんさいの日のことを話し合いましたみんなが泣いて、みんなが悲しかったんだと分かりました。(略) みんなでぼうさいマップをかんせいさせました。「よし、これで安心してれいせいににげれる。」と思いました。

野田村ぼうさいマップを作る活動になったとき、わたしは、こわくて不安がありました。(略) でも、「みんなと力を合わせればできる。」と思って取り組みました。(略) 地図がかんせいしたときこわい気持ちがなくなって「ちがう学年に見せたい。」という気持ちになっていました。もしもじしんがおきたとき、少しは安心だと思います。

さいしょはどうすればよいか分からなくて、また来たらどうしよう、こわいなあと思ったけど、ぼうさいマップを作ったすごく安心しました。つなみの時はみんなまったく笑っていなかったけど、授業参観や学習発表会で発表しているうちに、みんな笑顔になっていたの作ってよかったなと思います。

(略) おうちの人と避難所まで歩きました。6分30秒でした。妹も一緒に歩いてきたので、ぼくはいろんなことをはりきって教えました。家に帰って、話しながら地図にまとめました。

(略) つなみから命を守るためのぼうさいマップを作れてよかったです。次に作ってみたいのは、危ないところにかんばんを立てたいです。そうすれば、そこからはなれた場所からでも安全にひなんできるからです。

【保護者の感想】

- ・もしもの時、自分がどこに逃げるか、どういう行動を取ればよいのか、分かっているのといないのでは、気持ちが全然違います。みんなで考えて、学んで、これから先、一生役に立つと思います。
- ・3年生になり、防災に関する学習をするようになり、防災に対する考え方が変わったように思います。子どもたちがそれぞれに工夫して調べたことを分かりやすくまとめた防災マップ、ぜひ、我が家でも活用したいです。
- ・今の自分が大きくなり、次の子どもたちにも伝えられるように、体で感じたことを、いつまでも忘れずに心に刻んで欲しいと思います。

【まとめ】

- 子どもたちが自分の震災経験をふり返り、当時の気持ちや思いを書いたり話したり表出する活動を行った。それをお互いに聞き合うことで、辛かったり悲しかったりした気持ちを共感し合うことができた。
- 今の自分たちに必要なことや物は何か、なぜそれが必要なのかを、自分たちの経験をもとに繰り返し話し合うことで、気持ちを一つにし、目的に向かって活動することができた。
- 夏休みを利用し、親子で避難経路を一緒に歩き、調べてもらうことで、危機意識や安全確認を親子で共有することができた。
- 課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現の一連の活動の中で、課題がどんどん生まれ、広がりを見せていく中で、自分たちの学びを伝えたいという意識が高まっていった。全校朝会や学習発表会での発表を通して、自分にもできることがあるという自信と、前よりも怖くなくなったという安心感が生まれた。
- 子どもたちの心身の状況を把握し、過剰な負担にならないように配慮しながら進めたが、今後も留意が必要である。
- 地域や役場との連携をより深めたい。
- 他学年との系統性を検討する必要がある。